



WE LOVE
YAMANASHI

～県内学生の定着及び若者のU・Iターンの促進について～



目次

第1章 呼び込む

～山梨があなたを待っている～

p2

第2章 働く

～ようこそ山梨へ～

p11

第3章 暮らす

～のんびり豊かに山梨LIFE～

p15

第4章 連携

～みんなの力で定住促進～

p21

はじめに

～若い世代が山梨を元気にしていこう～

人口の減少が話題になっていいる近年の山梨県。

今回の提案では、今後未来の山梨を担っていく若い人たちにターゲットをしぼり、どうすれば山梨県に興味、魅力を感じてもらえるのか。

また、山梨で働き、暮らし続けってもらうためには、どの様につォローしていけば良いのかを考えました。

この提案が、少しでも多くの若い人たちに私たちの大好きな山梨を知ってもらい、定住へとつながっていくきっかけになることを願っています。

第1章

呼び込む～山梨があなたを待っている～

学生が就職先を考える時に、まずそれぞれが「やりたいこと」「将来の想像図」などを思い描きながら、「どのような企業を選ぼうか」、「どういう場所に住もうか」など、自分で考えた選択肢の中から可能性を選んでいきます。

では、学生たちに、「山梨での就職」を選択肢として考えてもらうためには、どうしたら良いのでしょうか。

まず、県外で就職している若い世代、また大学進学などを機に山梨を離れている学生に、

「今の山梨」や「山梨の魅力」を知ってもらうことが大切だと思います。

山梨を知ってもらうためにはどのような手段が必要なのか、私たちは以下のとおり提案します。



1. 企業見学会の工夫

現在のように就職が厳しい状況の中で、就職先を探している学生たちは、就職活動が本格化してしまうと、じっくりと企業の研究をする時間などありません。少し時間がある1、2年生のうちに、できるだけ多くの企業のことを知ることが必要だと思います。

今回の提言を検討している中で、山梨県が県外の学生を対象とした「企業見学会」を計画していることを知り、その機会を活用して効果的な取り組みができないかを考えました。

企業見学会は企業と学生が「出会い」、意見交換等により顔の見える関係を構築する絶好の機会です。学生と企業の距離を縮め、「こんな企業で働いてみたい！」という思いをもってもらうためには、

学生の緊張を和らげる雰囲気づくりや、興味や関心を持ってもらう取り組みを行う必要があります。

また、せっかく山梨県で就職を考えているたくさんの学生が集まる機会なので、企業の説明はもちろんですが、自社製品の体験や試食などを見学会の中に取り入れ、併せて山梨のさまざまな情報などをPRするなど、「山梨」の印象を強く心に残すことが必要だと思います。

<県の施策>

- ①スーツではなく私服での参加を呼び掛け、学生と企業との距離を縮める。
- ②物製品の試食会、企業の商品の使用・体験製作を通して親しみやすい雰囲気作りをする。
- ③参加者の声を広報等に掲載し、広く情報発信を行う。

2. 山梨での生活イメージの提示

(1) 生活イメージ情報の提供

山梨に住んでみようかと考えるときに、特に県内の大学にいる県外出身者の学生は、「ここで豊かに暮らしていけるのだろうか。」「私の収入で暮らしていけるのだろうか。」「山梨に定住というのも考えているけれど、イメージができない、やっぱり地元に戻ったほうが…。」といった迷いが頭をよぎります。漠然と都会よりは物価は安いだろうと思いますが、

具体的な山梨での生活イメージを沸かせる情報が少ないため、山梨での生活が不安に感じます。

このような不安こそ、山梨への定住の可能性を阻害する原因の一つであると思い、

不安を軽減させることが、山梨への定住の可能性を伸ばすことにつながると考えます。

<県の施策>

① 山梨で暮らしていくイメージ、ライフプランを描きやすい情報や動画で提示する。

○物価(家賃)が安い、買い物も十分にできる、山梨の特産品(魅力)、スローライフが送れる等の山梨の利点を提示

○イメージをより湧かせリアリティなものにするために数値(家賃、光熱費、平均収入等)も提示

Image



のびのび生活

Iさん(23歳 採用1年目 会社員(事務職)独身 アパート1K)

仕事

通勤時間 自転車で10分(通勤ラッシュは関係なし)

勤務時間 8時30分から5時30分

給料 17万(平均的)

生活

家賃 3~6万円

光熱費 1.4万円以内

食費 2~3万円

ゴミ出し 週2回(分別作業も慣れれば快適)

プライベート

街中の様子 おすすめポイント 近所からのおすそわけ(果物)

県内の観光(春夏秋冬 魅力発信) 東京への買い物♪

週末の生活紹介(週末の生活モデル 市町村イベント情報)

山梨は
物価が安い!

東京へも楽々
行けちゃう!



こうした**情報は、目につかなければ意味がありません。**

そのため、情報を提示する場所は肝心です。

今回のテーマの対象であるIターンUターンをする若い世代や就職活動を行う学生は、情報源として、県の就活サイトを利用して情報を得ることが多いため、就活サイトを充実することで、幅広い情報提供が可能になります。

<県の施策>

- ① 就活サイトに上記の情報（生活プラン）を掲示する。
- ② 就活イベントや仕事、家を探している人の目に着く場として YouTube 等を活用して情報を掲載する。
- ③ 就活情報をフェイスブックやツイッターに掲載する。



就活サイト

ライフプラン

(2) 特産品の価値を高める

山梨県には魅力溢れるたくさんの特産品があります。桃、ぶどう、ほうとう、ワイン、宝石、甲斐絹、印章等数え上げればきりがありません。このような**特産品に魅力を感じて「実際に私も携わってみたい」、「山梨へ行ってみたい」と移住を考える人も出てくる**のではないのでしょうか。

また県内外で特産品に関する情報は目にしますが、

生産物や作品等に携わった人の思い、考え、エピソードなどが入った情報は少ないように思います。

こういう情報を、買い求めた人にはもちろんのこと、広くホームページや情報誌などに掲載することで、人の思いに触れることもでき、さらなる魅力発信ができると思います。

<県の施策>

- ① 実際に山梨で特産品の生産等に携わっている人の生き方や声を特産品と一緒に提示するほか、ホームページや情報誌等でも掲載する。（特産品の価値が高まりさらなる魅力発信が可能になる）

そして、山梨にすでに生活している方々の思いが広く伝わることにより、「人となり」「県民性」を感じ、安心して山梨での生活を踏みだす一歩につながると思います。



Grape



Peach



(3) 移住者の声を発信

実際に移住を考える際には、「ちゃんと暮らしていけるのか…」といった不安がどうしても生じます。

こうした**不安を軽減するためには、実際に移住して生活している人たちの生の声を届けることが効果的**ではないかと考えます。

特に**子どもがいる家庭の場合には、子育てがしやすい生活環境が整備されていることも、移住を考えていくうえで重要な要因の一つ**になってきます。

このような子育て世代に山梨をPRしていくためには、山梨の魅力を発信するだけでなく、子どもを育てていける環境が整っていることも併せてPRしていくことが重要です。

<県の施策>

- ① 移住者たちをネットワーク化し、ブログやフェイスブックなどを通して情報発信をするために、移住者の生の声を届ける。
- ② 企業・スポーツ分野等のロールモデルの紹介、移住者を講師とした出前講座などの活用等により、広く情報を提供する。
- ③ 山梨に移住してきた子育て世代を対象に、田舎暮らしの魅力や暮らしぶり、子育て環境を取材したガイドブック等を作成する。
(若者版 甲斐適生活など)



(4) 学生への情報提供

① 子育てしやすい環境

若い世代を山梨への定住につなげていくためには、

就職情報のほかに「暮らしやすい環境」をアピールすることが大切です。

山梨に暮らし続けようとする人は、「**就職→結婚→子育て・・・**」と将来の展望を描きながら、「ここで生活できるか」を考えます。

「出産のためにせっかく苦勞して就職した会社を辞めなければならない」、「しかし、出産し、少し落ち着いたら生活費や教育費のために再び働かなければならない」、「いざ働こうとしても低賃金のパート仕事ぐらいしかない」。これは今の社会の中で、女性が置かれている現状であり、打破すべき課題だと思います。

「子育て環境が整っている」、「結婚しても働きやすい職場が多い」というのは、特に女性にとって職場を選択する上で魅力的な情報であり、定着につながる可能性を多く持っているように思います。

<県の施策>

- ① 若い世代が、快適に子育てをできる環境があることを、啓発資料等の作成やホームページ等で子育て環境の生の声として広報する。(その時には、市町村がおこなっている内容も含む)

例：事業所内託児所の設置に向けた取り組みや病児病後児保育等、さまざまな子育てに関する取り組み等

県外だけではなく、県内の学生がこのような情報を事前に知ることができたら、就職をする上で山梨県を選択肢の一つに入れるようになるのではないかと考えます。

Environment with
Easy child-rearing



Environment which
can keep on working



②山梨の情報を発信(就職、連携事業など)

今、インターネットやホームページを見れば、求める情報はいくらでも手に入ります。しかし当たり前ですが、自分が求めているなかったり、意識していない情報は目に付きにくくなっています。県ではさまざまな情報をHP等で公開していますが、

何気なく目に留めてもらうためには、情報誌、ミニコミ誌、フログ、フェイスブックなどさまざまな媒体を活用することが必要だと思います。

学生に対して、「山梨県のことをもっと知ってもらいたい」、「就職先を選択する時に山梨を選択肢に入れてもらいたい」。そういう思いを伝える手段として、**紙媒体をもっと活用すべき**だと思います。

若い世代はソーシャルメディアから情報を得ていると思われるかも知れませんが、紙媒体での情報を意外と活用しています。

また、せっかく作成したものなので、**たくさんの学生に見てもらえるよう置き場所についても工夫すると良い**と思います。こうした情報は、就職支援を行う場所などには目にしますが、そういう場所は就職情報に関心が向けられてしまうので、比較的学生が集まりやすい場所に置くことが有効だと思います。

<県の施策>

- ① 山梨を選択肢に入れてもらうための情報として、以下のようなパンフレット等を作成(活用)する。
- ② 情報の設置場所に工夫する。(大学であれば就職窓口のほかに図書館、学食、各学部の掲示板付近など) 必要な情報を相手に届けることが可能になります。

例えばこのようなパンフレットやちらし!

- ◆山梨発見ツアー等のお知らせ
- ◆山梨(市町村)が行っている子育て制度等
- ◆山梨で充実した生活を送っている人の特集(若者版 甲斐適生活など) など

Environment with
Easy child-rearing



3. 街中の整備

山梨に生活していくためには、生活環境を整備していくことも重要です。例えば甲府駅の周辺を見てみても、さまざまな問題点があると思いますので、高齢者、子ども、女性などの視点を取り入れて、暮らしやすい環境を視점에整備をすることが必要だと考えます。

<県の施策>

★例えばこんなこと！

- * **公衆トイレ**… 普段はデパートや駅ビルのトイレを利用することができても、夜は公衆トイレを利用せざるを得ない時があります。ただ、南口の公衆トイレなどを見ても暗く危ないので、女性一人ではなかなか利用しづらいのが現状です。
例えば発想を転換して、あえてモニュメントのように真ん中に設置することで、周囲から監視ができる状況にすると良いのではないのでしょうか。
- * **ゴミ収集所**… ゴミを出す際に周囲に中身が見えてしまったり、カラスなどによりゴミが散乱していることが気になります。ゴミ収集所の周りに囲いを設置するなど、一部中身が見えづらくなるような工夫が必要だと思います。
- * **道路の整備**… 今は道路の道幅が狭く、雨の日などには傘をさしてすれちがうことが難しいところが多くあります。傘をさしてすれちがうことができるような道幅があったら良いなと思います。
- * **自転車置き場の拡充**… 駅前には朝の通勤時間などを中心に数多くの自転車がとこ狭しと並んでいます。これは、駅前の景観を損なうだけではなく、無造作に並んでいるため、自転車が取り出しづらいといった利用面にも影響します。そのため、きちんとした自転車置き場を拡充し、管理をしていくことが必要になります。また、これにより街の景観も整備されることから、暮らしやすいまちづくりにもつながっていきます。
- * **多様な視点**… 街づくりは、大人が計画・実施していくため、子どもや高齢者の視点がなかなか入っていかないのではないのでしょうか。子どもや高齢者にとっても暮らしやすい街づくりを意識し、例えば公園や休憩所の整備とともに、子どもが座りやすい低いベンチを取り入れ、子ども連れの人や高齢者の人が休憩できるような場所を作っていくと地域の交流の場にもなり、暮らしやすい場がつくられると思います。
- * **防災新館**… 県庁に新しく建設されている防災新館には、宝飾品等県産品を展示する「ジュエリーパサージュ」、県産品を販売する「まるごとやまなし館」、県民や観光客などに県内情報を提供する「総合観光物産案内センター」などが設置されます。
このような場を県民や観光客に山梨のことを知ってもらう場として活用していくためにも、バスも含めた駐車場の整備や、広く情報を発信するなどの工夫が必要です。

4. SA等を利用した山梨情報の充実

繁華街の人ごみ、電車のラッシュなど都会の喧騒の中で生活していると、自然の景色や森などのパワースポットなどを紹介したポスターなどに心を癒され、

そろそろのんびり暮らしてみたいなど、田舎暮らしを考える人もいるのではないのでしょうか。

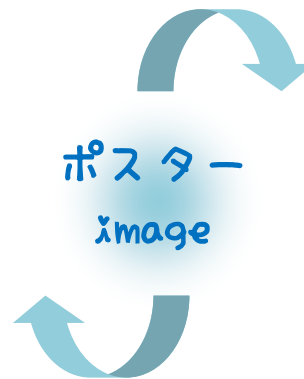
そのような人たちに向けて「東京からも近い」「山梨の自然、人、食」などを強くPRすることで、**移住を考えるきっかけにつながっていく**かもしれません。

実際に内閣府の調査によると、都会から農山漁村地域に定住してみたいという願望がある者の割合は20.6%を占めています。

また、この他に山梨県には談合坂に大きなSAがあります。県内と県外をつなぐ通行口であり、目的はさまざまだと思いますが、山梨に興味を持っている人が利用する割合が高い場所の一つだと思います。ここをさらに活用して、もっと山梨をPRできれば良いのではないのでしょうか。

<県の施策>

- ① 都会の通勤者がよく利用する場所（例えば地下鉄の中吊り広告や駅など）に山梨県の魅力（自然、人、特産品など）あふれるポスターを掲示する。
- ② 談合坂SAを活用した山梨県の魅力を発信する（田舎暮らしのイメージ映像等を流すなど）。
- ③ 県外の大学や山梨県出身者が経営する店舗を活用したPRを行う（ポスター・パンフレットの設置）。



5. 地域の人との交流機会の提供

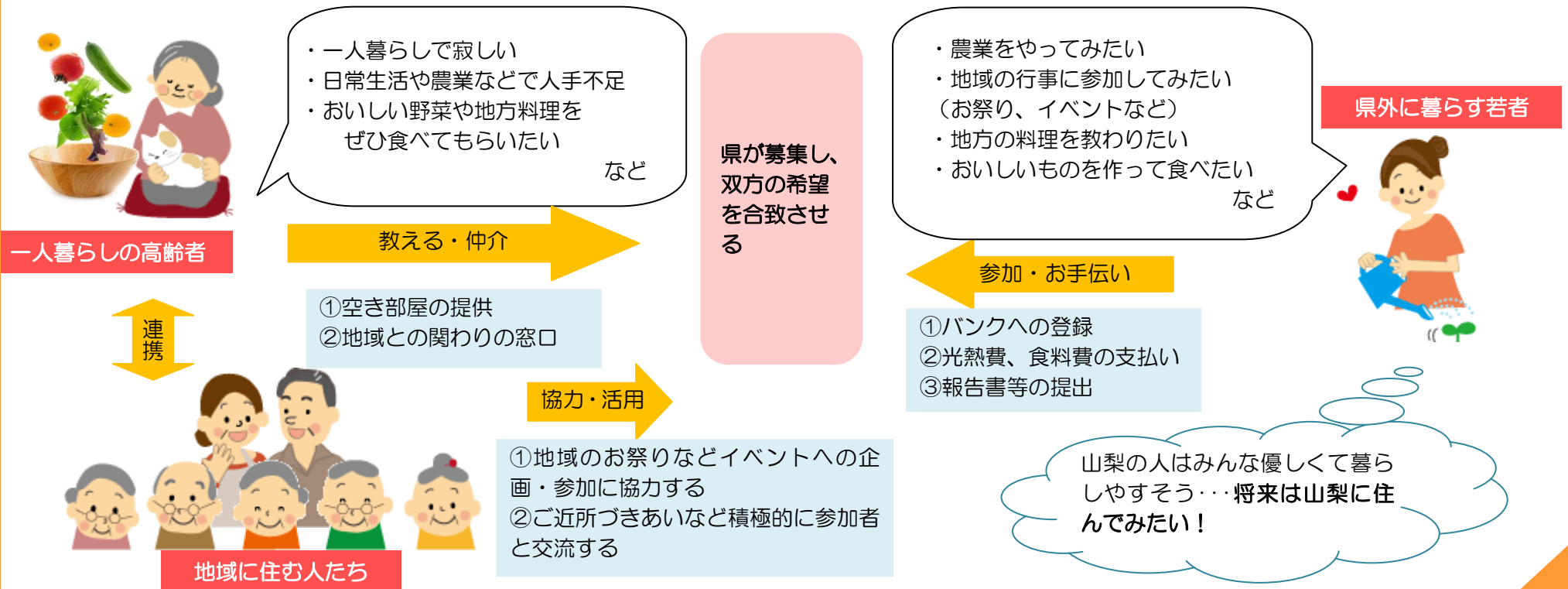
最近では、県外に暮らす方が夏休みなどを利用して「都会の生活から離れ、心身ともに自然の中でゆっくり癒されたい」、「自然と触れ合い、農業体験などで汗を流したい」などと考えて、山梨県を訪れる若者がいるようです。

山梨県でも全国同様、少子高齢化等により、各地域で一人暮らしの高齢者の増加や担い手不足などの問題が生じています。このような

高齢者の増加や担い手不足などの地域が抱える問題と、若者のニーズをつなげるための交流を深め、双方の間でネットワークを構築することで、地域の活性化及び若者の定住促進の両面からアプローチすることが可能になります。

また、最近では「自然豊かな環境で働くことによる精神的負担の軽減」、「農業体験や草刈り体験を通して自然を感じる」などの他に、「環境が異なる地方で地元の方と事業を行うことで体験した文化や触れ合いをビジネスに活かす」サテライトオフィスという新しい働き方が始まっています。このようなサテライトオフィスの誘致に向けても、都市農村交流により、事前に山梨を知ってもらうことは有益ではないかと考えます。

<県の施策>



第2章

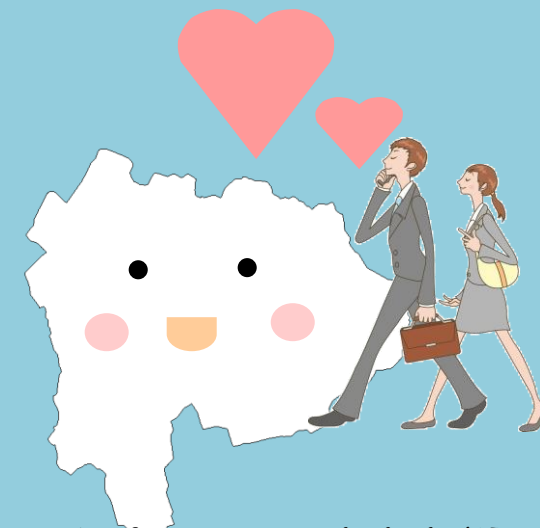
働く～ようこそ山梨へ～

若い世代が山梨を離れ、生活の場を都会に求めていくのは、さまざまな要因が重なり合っていると思います。ただ、**働き場所の確保については、定住を進めていく上で非常に重要**だと思しますので、**山梨への企業の呼び込みや企業の県外転出防止のための取り組みには、今後も力をいれてほしい**と思います。

また、**山梨に就職した後、継続して働き続けてもらうことも重要**です。

統計資料によると、全国で新規採用者から3年目までの退職者は、大学卒業者の30%を占めます。その背景として、自分がイメージしていた“仕事”と“実際”とのギャップや、相手の感情や意図を敏感に感じ取って、相手の言いたいことを理解する能力（コミュニケーション能力）が足りないなどが原因として考えられます。

そこで、このような新規採用者の早期離職を防ぎ、定住を進めていくための施策として、次のことを提案します。



Welcome to YAMANASHI.

1. 新入社員の定着支援

就職をするまでは、就職活動や人間関係で悩みがあっても、大学等でのフォローや、友達や家族が側にいてくれるため、相談できる場所がすぐ近くにあったのではないかと思います。しかし、社会人として働き始めると仕事を覚えることで精一杯になり、気がついたら会社と家との往復だけの生活になってしまいがちです。特に県外出身者は、場所も不慣れな上、友達や家族が身近にいないため、疲れの解消や悩みを話せる機会も少なく、会社以外に他者と交流をする機会がなかなか作れない状況です。

新入社員が離職せずに働き続けるようにするためには、同じ新入社員同士で友人をつくり、悩みや疲れを解消できる人間関係を築くとともに、先輩と交流をし、仕事について学ぶ場が必要だと考えます。



<県の施策>

① 新入社員交流会の開催

- ・内定が決まった学生を対象として、会社ごとに研修の時期は異なりますが、研修や交流を行う場とする。
- ・研修会では、電話の取り方やビジネスマナー、仕事の進め方などについて学ぶ。
- ・交流会には「会社の歳が近い先輩」も参加し、会社・実際の仕事について直接会話できる場とする。

これらの提案のように交流を行うことで、友人をつくることができ、県外から来た人も新しいコミュニティを形成するきっかけになります。また、事前に会社などの話を聞くことができるので、新入社員の不安解消にもつながります。



② 異業種企業間の交流セミナーの開催

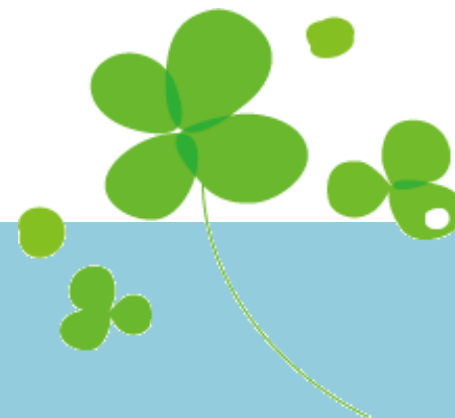
- ・他者、多分野で働いている人と交流を行う場とする。
- ・新入社員のみではなく、さまざまな年齢の人が参加する。

異なる分野・専門をもった人と交流することによって他の分野・企業について学び、異なる視点を学ぶことができます。また、さまざまな年齢の人が参加することで、世代間の交流の機会を与え、ライフスタイル・志しなどを学べるため、将来像も描きやすくなります。



③ コーディネーターの設置

- ・上記交流会やセミナーなどにも参加し、相談の受付や、交流の手助けを行う。
- ・会社にコーディネーターを派遣し、新入社員の相談窓口となる。(例えばコーディネーターにはハローワークにつながっていたり、法律的な判断を下せる人)



2. 長期インターンの導入

「入社を試みたけれども、考えていた仕事とは違っていた…」そんな理由で早期に退職してしまう人たちが増えています。実際に就職前の期待が裏切られてしまったと感じたときの気持ちは、離職への引き金のひとつになるでしょう。

このような企業と働き手のミスマッチがおこる背景として、

- ① 働く側が「働く」という実体験が乏しいため、「働くとはどういうことなのか」を実感できていない。
- ② 学生が就職先として大企業に目を向けている
- ③ 企業側も人材育成に手間と時間をかけることができないということがあげられると思います。

そのため、**働く側は、やりがい、働きがいのある職場を求めながらも、相手企業のことをあまり知らないまま就職をしてしまい、何か問題にあたると、自分の理想はこんなはずではないと早期退職。**

企業側も、本気で求めて採用し人材を育て、これから戦力になるぞと期待した矢先、自分がやりたいことはこんなことではないと言われ、企業側は落胆し社員のモチベーションも下がる。

では、企業と働き手をどのように結びつければミスマッチ、またミスマッチによる早期の退職を防げるのでしょうか。そのためには、

働き手の現場感覚、体験感覚を補うような経験や就職前の学生と企業の触れ合いを短い時間で何度も重ねることで、採用前と採用後のミスマッチを減らすことが必要だと思っています。

◎これまでの制度を恋愛に置き換えてみると…



<県の施策>

① 長期インターンの実施

内定から就職までの期間が短いと、どんな現場なのか、仕事の内容、社内の雰囲気など知りたい情報が少ない状況で就職先を決めていかなければならなくなります。そこで、いわゆる交際期間である企業のことを知る時間をより長く確保するために、大学の授業の一環として次のような取組みを提案します。

例えば… * 大学側と企業側で連携を結び、企業は学生を長期インターンとして受け入れる。

* 大学側も期間中の学費免除や単位取得などの方法を設ける

* 授業がない日のみインターンとして行く(週3~4日 etc)

② オーダーメイドのインターンシップ

企業が出した希望の中から、参加する側が興味のあるテーマやチャレンジしたいことを自由に決め、インターンの最終日にどんな成果を出せるかという目標に向かってチャレンジするなど、企業と学生の希望に合わせたインターンシップによって、自分の目で見て判断し、物事の本質を見極めてこそ最良の選択ができる。セミナーや面接等では伝わらない、現場の空気や温度感を体感し、現場感覚を養う。

3. 起業に対する支援

就職が厳しい中で、県外の芸術、工芸、建築系の大学を卒業した学生の一部は、「いっそのこと自分で起業しよう」「自分のブランドを創ってみようか」と考える学生もいます。しかし、**やる気があっても生活していくには、経済的に厳しい中で、夢半ばで諦めてしまうことが多い**と聞きます。

山梨は東京にも近く、地場産業が盛んです。そんな環境を利用して、若いやる気のある人たちを山梨に集めて、起業までのお手伝いをすることができないでしょうか。また山梨で働いている同じような人たちへの刺激にもなるのではないのでしょうか。



<県の施策>

- ・若い方々が活躍できる場を確保する。例えば市町村の空き店舗の利用などによる手助けを行う。
- ・県内で活躍している若手の技術者等とワークショップやセミナー等により交流を図る。
- ・定住につなげていくために、在宅型テレワーカー等の働く場を選ばない新しいワークスタイルを支援する。



第3章

暮らし～のんびり豊かに山梨LIFE～

これまでの日本経済が発展してきた方法では、資源の枯渇、人口の減少、経済発展の滞りの中、これからの日本・山梨県の発展は難しいと思います。費用対効果を追求する考え方は、競争社会や学歴社会を促し、身体も心も疲労してストレスが増え、人が生きづらい社会を作り出しています。

そのため、これからの子どもや若者が、生きることに対して、山梨に住む事に対して生きがいを感じる仕組みが必要になると考えます。

お金では買えない自然の恵みや、人間が太刀打ちできない自然の脅威があることを知ったり、人間が地球で一番ではなく、人間も大きな自然の一部であり、自然や周りのみんなと共存していくという心を持つことがこれからはなにより大切です。

長い期間がかかるかもしれませんが、小さいうちから「自分は自然に生かされている」ということを知り、大人も意識を転換していくことで、価値観が大きく変わっていき、いろいろな意味で生きやすい世の中につながっていくと思います。



1. スローライフのすすめ

(1) 生き？価値観のツフトチェンジ

山梨の魅力である自然。この自然を感じ、優しい気持ちで生きることが実現しやすいのが「山梨県」だと思います。

山梨に住んでいると意外にその良さに気がつかなくて、つい都会に目がいきがちになりますが、豊かな自然、水、野菜、果物、地域のつながりなど快適な生活を送るために必要なものが山梨県にはあります。この豊かな環境の恩恵を受け生活ができる私たちは、この地をもっと誇りに思い、大切にしていきたいと思います。

また、私たちを取り巻く環境はますます厳しく、心も体も疲れ切っている人たちが多くなっています。都会より少し不自由はありますが、豊かな自然溢れる山梨に住み、心豊かな生活へとシフトチェンジすることで、幸せを実感できるのではないのでしょうか。



<県の施策>

例えば・

<健康推進県やまなし>

- ・自然を生かしたまち歩きを推進していく。きっかけづくりとして商店街と協賛し、歩数に合わせてポイントを提供する。
- ・中央線や身延線沿線での買い物ウォークやグルメウォークなどの企画運営を行う。
- ・気軽なウォーキングコースを紹介する。

<エコ活動推進県やまなし>

- ・専門家を招いての講演会(テーマの例:自然が人に与える、身体や心への作用と効果)を県主導で開催し、託児所を設け子育て世代も参加できるようにする。
- ・コンポストトイレ(肥料トイレ)を畑に増やしていたために販売隊、助成金を出す。
- ・雨水をためておき、庭の散水に使うことで夏場の夏さ対策に。企業にも勧める。
- ・環境エコ活動の県民運動をさらに推進する。
- ・各家庭で野菜を栽培することを義務づける。
- ・定期的なライトダウンを行う。
- ・使わなくなった物は他の人が利用する仕組みをつくる。例えば遊休品専門NPOの活用など。

<スローライフ生活の広報>

- ・県内外に向けて、山梨で楽しみながらスローライフを送っている方を紹介する。
- ・写真、エピソード。テレビ番組やCMのロケ地を市町村と一緒に広報する。

(2) 自動車社会からの脱却

山梨は自動車の保有台数(人口千人あたり)は、H23では6位と全国的にみても高く、自動車はまさに県民に不可欠の足となっています。その影響もあると思いますが、今年5月に発表された調査結果によると、山梨の女性の1日の平均歩数は全国で最も少ないという結果でした。

私たちの生活を振り返っても、少しの距離でも安易に車で移動してしまいます。

都会から山梨に住もうとすると、自動車ありきの山梨では、まず自動車を購入する必要があり、経済的な負担感を感じます。

移住して車がなければ、移動する手段としては、自転車、徒歩、公共交通機関を使わなければなりません。そうすると、「車運転者のマナーの悪さ」、「道路が狭い」、「道がぼこぼこしている」などが目につき、山梨の住環境がマイナスな印象となってしまいます。

また、県民がみんな自動車での移動を始めると、公共交通手段が発達しないため、若者にとっては住みにくいまちというイメージになってしまい、定住にはつながりにくくなってしまおうと思います。

定住の可能性を伸ばすためにも、公共交通機関の活用を含め、自動車の利用のあり方を考えていかななくてはならないと思います。

今だからこそ、**自動車社会から脱却し、山梨のすばらしい自然や環境と共存し、自然と調和してゆったりした時間の流れを楽しむ生活への移行が必要**なのではないのでしょうか。



<県の施策>

自動車の利用をなるべくセーフし、徒歩、自転車、公共交通を使った移動を中心にするカーフリー（自動車から解放された）社会の構築は、健康面はもとより、広く環境面での効果が期待できます。

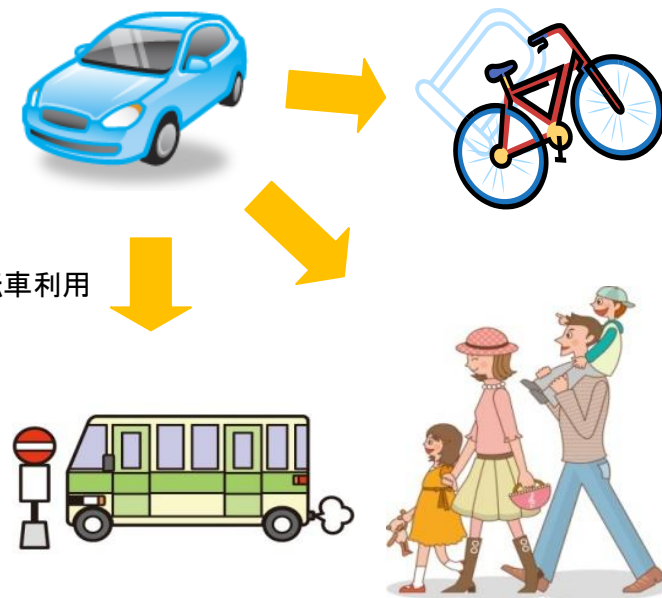
私たちは、その構築を目指し、自転車走行空間の確保や路線バスのルートやダイヤ見直しなど交通基盤の整備と、自転車や公共交通利用を積極的に進める「まちあるきマップ」の作成や「カーフリーデー」イベントの実施など、県民がクルマを賢くつかうという意識を醸成する事業を併せて実施していくことを提言します。

車社会からの脱却が実現するとエコロジー、健康、経済的などの面からさまざまな効果が期待できます。自動車社会を見直すためには、何をしたら良いのでしょうか。自転車専用の道を作ってほしいというわけではありません。ただ、県内のささやかな点でも改善をすることによって、その積み重ねは効果を生み出し、さらに、山梨に来た若者に悪い印象を持たさないようにすることが一つできるということになります。

具体的な施策の例としては、次のようなことが考えられます。

①自転車の活用

- ・車道と歩道の間を自転車通行帯として利用できるようにする
- ・自転車置き場を整備する
- ・県民には自転車のススめ(さわやかな自転車の健康促進の告知や企業と共催をして自転車利用の方を割引にするなどの特典をつける)
- ・イベントや観光地に対して、さらに自転車のレンタルを促進する取組みを実施する
- ・県外出身者や流入してくる若者には自転車を活用した健康促進の告知をする
- ・自動車ドライバーへの危険箇所の意識付け(自転車の通行位置・方向の明示)



②歩きやすいまちづくり

- ・歩道を整備する(歩道の段差等の解消を含む)
- ・夜でも安心して歩ける環境をつくるため、照明灯を整備する
- ・休憩できるベンチ等の設置
- ・案内板の設置及び歩いて楽しい景観づくり(緑化の推進やオープンスペースの確保等)
- ・地域、大学と連携した「まちあるきマップ」の作成



③公共交通機関の活用

- ・バスレーンの整備
- ・バスルート、運行時間等の検討
- ・自治体、事業者、県民が連携した「カーフリーデー」イベント等による啓発事業の実施

2. 集合住宅への魅力発信

山梨は東京からのアクセスも良いほか、自然溢れる環境やおいしい食べ物など、都会にはない魅力がたくさんあると思います。「自然の中で子どもを育てたい」、「土地が安いし一軒家を購入したい」など、情報を提供すれば山梨に興味を持つ人もいるのではないかと思います。

そのためにはまず、

山梨の魅力発信し、あわせて移住を考えている人が必要としている情報を提供していくことが必要です。**多くの人に一度に効率よく山梨の良さをPRしていくためには、特に集合住宅への情報発信が有効**ではないかと考えます。

<県の施策>

- ① 「山梨マルシェ」など山梨県の物産品の販売等により、まずは魅力をPRする！
- ② 山梨の情報をちらし配布等により併せて発信する！

【情報例】

- ◆山梨観光ツアーのお知らせ
- ◆街の魅力発信(コミュニティブランド、特産品の紹介など)
- ◆住宅のお知らせ(庭のある生活、低廉な価格を売りに賃貸・購入あわせて紹介！)



3. 郷土学習の充実

山梨県の人たちは、都会にあこがれを持ち、山梨から出て行ってしまおう人が多いように思います。そこには、小さい頃から家庭での学校教育・生涯学習を通して、「外からの物質では心は満たされない、豊かにならない。」ことに気づき、心の豊かさについて学ぶ機会がなかったからではないでしょうか。

現在の教育カリキュラムでの学力重視によって、子どもの時から心の豊かさへの価値観がゆがめられているように感じます。今の若者に、「山梨でのスローライフや自然」といってもそれに魅力を感じないのは、豊かに生きるための価値観が今の日本の状況と合っていないためではないでしょうか。

真の豊かさとは、大切な人と一緒にいられること、心が安定し満たされていること、未来に希望が見いだせることであり、山梨にはその豊かさがあるということを小さい頃から学習、教育していくことが重要だと思います。

山梨で生まれたことを誇りと思うようになるためにも、小さい頃からの教育が大切だと考えます。

<県の施策>

- ① **教育現場で、以下のようなことを子どもや若者に伝えていくとともに、家庭にも啓発を行う。**
- ② **地産地消の推進。自給自足の意義を学び食べ物があることへの感謝の気持ちを教える。**
(自分たちで食べるものは自分で作り、食べ物を作り出すことに全員が参加する。地産地消が増えることで、輸送コストや保存コストの減少)
- ③ **学校での教育内容の充実。総合や道徳の時間だけでなく、すべての教科の中で自然が身近にあることのありがたさを説いていく。(第一次産業の大切さ、尊さ。)**
- ④ **教員試験や、資格の更新の時に、子どもを教える先生にも豊かさの価値観を浸透させていく。**
- ⑤ **県の生い立ち、歴史などを身近に知る機会を。広く学校現場でも浸透させることで、郷土の自然・文化・伝統への愛着をもつ子どもを育てる。**
- ⑥ **「山梨県歌」の歌唱を励行する。小さい頃の意識づけというのは重要であり、成人して山梨県出身であれば誰でも歌える。山梨県を想うという気持ちの醸成につながる。**



4. 若者を対象とした山梨再発見ツアー

山梨に住んでいるからこそ、「山梨のことをよく知らない」、「良さを発見することができていない」ということもあるのではないのでしょうか。

そのような県内の学生や未婚者などの若者に山梨の魅力を感じてもらうために、農業体験や生活体験など受講者自身がプランニングするツアーを実施します。

若者自身がツアーをプランニングし、実施することで、自分達が住んでいる「山梨」の良さをより感じてもらうことができるため、定住へと繋がるきっかけになるのではないかと考えます。

<県の施策>

県は、ツアーを実施するために以下のようなことを行います。

- ① ツアー企画の募集及び参加者の募集を行う。
- ② ツアー実施に対する助成などを支援する。
- ③ ツアー内容等に関する関係機関、受入れ地域等との調整を行う。
- ④ 大学生や主婦など山梨のことをよく知る人たちをバスガイドとして募集・活用する。

(それぞれの得意分野に応じてツアーを企画する)

など



参加者に山梨県には近所づきあいの絆が残っている、人のぬくもりがあるということを十分体験してもらうために、行政、地域、民間団体が参加者を迎える姿勢を示す努力をするよう関係各所に働きかける必要があると思います。

例えばこんなツアーはどうでしょうか？

◆地産地消田舎暮らし体験ツアー

→空き家を貸別荘、遊休農地を貸し出し、農業体験や生活体験を行う。また、地元の行政や農協、地域関係者とのつながりをつくるため、ワークショップを実施したり、参加者と地元グループによる郷土料理コンテストや味噌づくり、漬け物作りなどを体験してもらう。

◆子どもと一緒に楽しむ農業体験 など

第4章

連携～みんなの力で定住促進～

山梨県では、少子高齢化等に伴う人口の自然減のほか、転出等に伴う社会減も伴い、年々人口の減少が問題になっています。人口が減少すると、労働力の低下に伴う経済力の低下や、地域等の活性力の低下などさまざまな問題が生じてきます。

このような問題を防ぐためには、**暮らしやすい山梨県を外に向けてPRし、各機関と連携をして山梨県全体で定住施策を推進していくことが不可欠**です。そのためには、**県の継続した質の高いリーダーシップが重要**となります。



定住促進体制の整備

<県の施策>

① 1本化した組織の構築

急速な少子高齢化による人口減少社会は、山梨県においても避けられない状況です。その中で、定住施策を将来に渡っての重点施策として位置付け、定住促進を行うための高いマネージメント機能を要した専門の部署を設置することは、県政における各種施策の重複の回避、重点施策での連携強化を行うためにも重要です。各部署の枠の中ではそれぞれ事業や政策が行われている印象がありますが、それらが線で結ばれていないように感じます。

定住政策は多様な機関や部署との連携、調和、事業の重複の回避、政策の弱い個所への重点政策などが必要なことから、それらを束ねる部署が不可欠となります。

また、外に向けてのPR、外からの問い合わせ窓口を一本化するためにもこのような部署の設置は必要になってくるのではないのでしょうか。

② 「市町村との定住連携会議」の開催

県の各部署のほか、市町村で実施している施策ともすりあわせを行うことが必要です。**市町村との連携を行いながら各自治体の諸事情を勘案して施策を行うためには、各機関が意見交換をできる「市町村との定住連携会議」等の設置が必要**だと思います。特に山梨県は中山間地域の高齢化と人口減少が顕著であり、高齢化による耕作放棄地、空き家率が全国でも高い水準です。このような問題を市町村等と連携して回避していくことが、魅力ある山梨づくりにより一層つながっていきます。

更に山梨県内における企業の割合は大企業より中小企業の占める割合が圧倒的に多いです。県内企業の活性化のためには、中小企業に重きを置いた施策が必要となります。これらについても、市町村と連携を図り、県外流出に歯止めをかけるべく、企業と地域の共生、行政と地域の共生、企業と行政との共生、それらを多様に進めることが必要になってきます。

おねりに

～つながりの強さを武器に～

東京からも近く、自然も豊かな山梨県。

そして、何より人と人とのつながりの強さが山梨にはあります。

この良さを県内外の若い人たちにPRすること、そして、受け入れる私たちも意識を変えて、県、そして地域に迎え入れおもてなしをすること。

このような取組みが、若者の定住へとつながっていくと思います。

山梨県に来た人たちに歴史、文化、人を含め山梨をまるごと好きになってもらうためには、私たちも暮らしやすい山梨を創っていく取組みを続けていくことが必要です。

やまなし女性の知恵委員会

定住確保対策～県内学生の定着及び若者のU・Iターンの促進について～ 委員一同

上野奈津美 上矢なぎさ 奥田真実 川村克美

古屋ゆきみ 丸山愛香 分部真希 渡辺洋子 (五十音順)